

公益財団法人 慶長遣欧使節船協会

- (1) 情報公開シート I (PDCAサイクルシート)
- (2) 情報公開シート II (財務諸表等)
- (3) 情報公開シート II の補足資料
- (4) 市が期待する役割、市意見書等
- (5) 定款又は寄附行為
- (6) 役員名簿
- (7) 事業報告書
- (8) 損益計算書又は正味財産増減計算書
- (9) 貸借対照表
- (10) キャッシュ・フロー計算書
- (11) 財産目録
- (12) 事業計画書

1 作成年月日・市所管部署

作成年月日	平成 28 年 6 月 23 日
-------	------------------

市所管部署	石巻市 産業部観光課
-------	------------

2 法人名称等

法人名称	公益財団法人慶長遣欧使節船協会
法人所在地	石巻市 渡波字大森30番地2
設立年月日	平成 4 年 1 月 11 日
代表者職・氏名	代表理事 一力雅彦

設立目的・経過	慶長遣欧使節等の大航海時代の歴史的実績並びに船舶及び海洋に関する学習・体験の場を提供する事により、地域の振興及び青少年の健全育成に寄与すること。
---------	--

3 定款上の事業内容

- (1) 慶長遣欧使節、船舶及び海洋に関する調査研究
- (2) 慶長遣欧使節に関する資料の収集及び展示
- (3) 船舶及び海洋に関する資料の収集及び展示
- (4) 海事思想の普及・啓蒙
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

4 出資・出捐の状況

資本金・基本財産総額	石巻市出資・出捐額	石巻市出資・出捐割合	市以外の出資・出捐者	市以外の出資・出捐額	市以外の出資・出捐割合
1,000,000	500,000	50.0	宮城県	500,000 千円	50.0 %
				千円	%
千円	千円	%		千円	%

※出資額が多い順に上位3者（個人は「個人」と表記）を記載

5 役員・職員の状況

(1) 役員

	H25期末	H26期末	H27期末
常勤			
うち市職員			
うち市退職者			
非常勤	11	11	11
うち市職員			
うち市退職者	1	1	1
計	11	11	11
うち市職員			
うち市退職者	1	1	1

(2) 職員

	H25期末	H26期末	H27期末
常勤	15	6	9
うち市職員			
うち市退職者			1
非常勤	3	11	12
うち市職員			
うち市退職者			
計	18	17	21
うち市職員			
うち市退職者		1	1

※市職員（及び市退職者）とは、市の常勤の特別職及び一般職の者（及びそれらの職にあった者）で、法人の役職員に就任している者をいう。

6 経営理念・方針

慶長遣欧使節等の大航海時代の歴史的実績並びに船舶及び海洋に関する学習・体験の場を提供する事により、地域の振興及び青少年の健全育成に寄与する事を目的とする。
①慶長遣欧使節、船舶及び海洋に関する調査研究
②慶長遣欧使節に関する資料の収集及び展示
③船舶及び海洋に関する資料の収集及び展示
④海事思想の普及・啓蒙
⑤宮城県の指定を受けて行う慶長遣欧使節船ミュージアムの管理運営
⑥石巻市の指定を受けて行うサン・ファン・パウティスタパークの管理運営
⑦その他この法人の目的を達成するための必要な事業

7 中期的な経営目標・事業計画

目標項目・指標	単位		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度期
観覧料収入	円	目標計画	22,520,000	20,634,000	20,132,000	20,132,000	20,132,000
		実績	20,124,340	15,573,710			
目標・指標の説明			平成26年度より通常開館となり、平成27年度は年間310日の開館日数。				
目標未達の場合の要因分析			復元船の定期点検のため5月25日～7月22日までの間入館料を700円から350円に又、シミュレーションシアターの不調のため4月から11月2日まで入館料560円に減額したため。				

目標項目・指標	単位		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度期
入館者数	人	目標計画	55,000	48,000	48,000	48,000	48,000
		実績	44,928	48,614			
目標・指標の説明			平成26年度より通常開館となり、平成27年度は年間310日の開館日数。				
目標未達の場合の要因分析			サン・ファン祭り・イタリア祭及び「サン・ファン館歴史講座」等企画事業の充実を図り入館者の増加を図った。				

8 主要事業の成果、課題

事業名称	前期の事業成果	自己評価・事業課題	前々期の課題への取組成果
①第22回サン・ファン祭り ②イタリア祭 ③サン・ファンイルミネーションツリー ④第7回絵画コンクール	①市民手作りの第22回サン・ファン祭りに約15,000人が来場 ②イタリア祭に約6,000人来場 ③サン・ファンイルミネーションツリー。12/23夜間開館を実施(有料入館者数257名) ④第7回絵画コンクールに作品総数36点の応募があった。	①「サン・ファン祭り」及び「イタリア祭」に多くの来場者が訪れ、広く慶長使節船の意義について啓蒙が図られた。 ②これまで石巻圏域の小中学生を対象としていたが今回から対象を県内に拡大した。	①第21回サン・ファン祭りに約10,000人が来場 ②第6回サン・ファン絵画コンクールを復活開催 ③サン・ファンイルミネーションツリー。12/23は夜間開館(有料入館者数241名)
事業の公共性、公益性	県民共有の財産として復元した慶長遣欧使節船「サン・ファン・パウティスタ」をメイン展示する宮城県慶長使節船ミュージアム及び隣接するサン・ファン・パウティスタパークを活用したPR事業を実施し、同施設のPRに努めた		

事業名称	前期の事業成果	自己評価・事業課題	前々期の課題への取組成果
①企画展「伊達の黒船をつくった人々」 ②慶長遣欧使節の世界的意義 ③慶長使節が目指した世界	①「伊達の黒船をつくった人々」を11月1日より1月25日まで開催し、終了後も展示公開 ②宮城学院大学平川学長を講師に「慶長遣欧使節の世界的意義」の講演会を開催した。 ③「慶長使節が目指した世界」を5月から10月まで6回開催した。	①当館初の館長講座「慶長遣欧使節の世界的意義」などの講演会を開催し慶長使節の啓蒙を図った。 ②サン・ファンシアターの新規映像「二つの大津波とサン・ファン・パウティスタ」を製作・公開し、慶長使節の派遣と慶長の津波の関連性について広く周知した。	①「海のまちと希望の帆船」を開催17,500人が見学。又、同テーマのシンポジウムとバチル巡回展を気仙沼リアス・アーク美術館で同時開催。 ②シンポジウム「海と向き合う人々の民俗学」を開催し50人が聴講。
事業の公共性、公益性	これまでの我が国初の外交使節としての慶長使節の歴史的意義の普及・啓蒙に加え、東日本大震災の復興事業で判明した歴史的事実として、使節派遣の目的がその2年前に仙台藩を襲った慶長の津波からの復興という、新たな目的があることについて周知に努めた。		

9 市が期待する役割、市意見等 (担当部署記載)

※各情報公開シートの個別項目毎及び決算全体の所感について、別紙様式に記載ください。
